

# めぐみイエス・キリスト教会

2021年11月28日(日)第四主日礼拝  
週報「通算第585号」



## 2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌203「ああイエス君」 p. 304

【交読文】 No.13詩篇第34篇 p. 888

【賛美Ⅱ】 新聖歌426「世には良き友も」 p. 686

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.18「聖なる方」

【聖書朗読】 使徒の働き13章38節～43節

【礼拝説教】 《パウロのメッセージそのⅢ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ◎聖書箇所「使徒の働き13章38節～43節」(新約p. 262上段)

13:38 ですから、兄弟たち、あなたがたに知っていただきたい。このイエスを通して罪の赦しが宣べ伝えられているのです。また、モーセの律法を通しては義と認められることができなかつたすべてのことについて、

13:39 この方によって、信じる者はみな義と認められるのです。

13:40 ですから、預言者たちの書に言われているようなことが起こらないように、気をつけなさい。

13:41 『見よ、嘲る者たち。驚け。そして消え去れ。私が一つの事をあなたがたの時代に行うからだ。それは、だれかが告げても、あなたがたには信じがたいことである。』

13:42 二人が会堂を出るとき、人々は、次の安息日にも同じことについて話してくれるように頼んだ。

13:43 会堂の集会が終わってからも、多くのユダヤ人と神を敬う改宗者たちがパウロとバルナバについて来たので、二人は彼らと語り合い、神の恵みに留まるように説得した。

### ●ポイント1.「信じる者はみな義と認められる」こととは？

#### ※ローマ人への手紙3章20節～24節「パウロの解釈」(新約p.301下段)

3:20 なぜなら、人はだれも、律法を行うことによって神の前に義と認められないからです。律法を通して生じるのは罪の意識です。

3:21 しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。

3:22 すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。

3:23 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

3:24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

### ●ポイント2.「預言者たちの書に言われているようなこと」とは？

#### ※ハバクク書1章5節「紀元前612年頃の預言から」(旧約p.1597上段)

「異邦の民を見、目を留めよ。驚き、たじろげ。私は一つの事をあなたがたの時代に行くからだ。それが告げられても、あなたがたは信じない。」

### ●ポイント3.「神の恵みに留まるように」とは？

#### ※ヨハネの福音書15章4節～5節・9節「主イエスの言葉」(新約p.215下段)

15:4「私に留まりなさい。私もあなたがたの中に留まります。枝がぶどうの木に留まっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたも私に留まっていなければ、実を結ぶことはできません。

15:5 私はぶどうの木、あなたがたは枝です。人が私に留まり、私もその人に留まっているなら、その人は多くの実を結びます。私を離れては、あなたがたは何もすることができないのです。

15:9 父が私を愛されたように、私もあなたがたを愛しました。私の愛に留まりなさい。」

## ◎先週の礼拝メッセージの概要【パウロのメッセージそのⅡ】

《先週に引き続き、パウロがピシディアのアンティオキアのユダヤ人の会堂にて、語ったメッセージの二回目となります。前半は導入部分で、この中間部においては、福音の核心とも言うべき、主イエス・キリストの復活について、その時、会堂に集まった聴衆に迫るのです。

パウロは、エルサレムのユダヤ人と最高議会は、安息日ごとに読まれる旧約聖書を理解せず、主イエスを罪に定めて、殺すことをピラトに求めたと言う、彼らの最大の罪をここで明らかにしています。

特に律法では、「木にかけられた者は神に呪われた者」とされており、主は、まさに呪われた者として十字架にかけられたのです。パウロが、あえて「木」と言っていることは、その真実を明確にしているからです。

また「墓」に納めたと言うことは、主イエスが本当に死なれたことを意味し、そして「神はイエスを死者の中からよみがえらせました」と福音の真理を語ります。これが希望です。これが福音であり、良き知らせなのです。

そして、ここから旧約聖書のみ言葉を引用し、主イエスこそが、神様が約束された「メシア」であることを解き明かして行きます。

詩篇の第二篇から、『あなたは私の子。私が今日、あなたを生んだ』と。すなわち、主イエスは、神の御子であるということです。

またイザヤ書から、『私はダビデへの確かで真実な約束を、あなたがたに与える。』と。主イエスはダビデの子孫であることを証明しています。

そして、『あなたは、あなたにある敬虔な者に滅びをお見せになりません。』と。主は復活された後、栄光の体を与えられたことを述べています。

主イエスと同じように、主を信じる者である私たちにも、よみがえりと栄光の体を与えられることを述べているのです。私たちは滅びません。

主イエスはよみがえられました。そして今も生きておられます。主は、悪魔の最大かつ最後の武器である「死」をも打ち破られたのです。主イエスを信じる私たちには、「永遠のいのち」が与えられています。この贈り物を、多くの人々に届ける役割も、私たちには与えられているのです。》

## ◎お知らせ

※第一主日礼拝は12月5日(日)午前10時から教会で行ないます。